

云河原に有と云り、此頃山僧雲水の路次、近江の石部の宿より、佳茗少許に加へて、小石一枚を俱に封裏して餉來る。是茶の産地の石と俱に煎るべき風流、甚興有事におぼえし。又水を製する法有、常品の水を瓦罐に沸せて、屋上或は庭砌に架を造り、瓦罐を其上に置、蓋を去、一夜星露を承しむれば上品の水となれる事、試みし所也。此事知新録に見えたり。又一法、羅^ラ牟^ン毗^ビ伎^キを用て、水の英靈を取、是に星露を承しむれば、上品となる也。喫茶家清泉に遠きは、一大厄なり。東坡は常に玉女河の水を愛し、符を齎せて汲しめ、且此流を枕に爲ざる事を歎息せしとぞ。又山居の人は、算を造りて水を引、承之奇石貯之、以淨甌と見えたり。剝木取泉遠と云は是也。又水は輕きを上首とのみ云も、大統の論也。山水は淳濼の品も輕し、江水は茶に宜しきも、鹹苦腥臭の井より重きが有、茶譜に、山頂泉清而輕、山下泉清而重と見え、鍾伯敬も源泉必重、而泉之佳者重と云へば、一槩なるべからず、只々水は石に出るもの佳也と云へば、山泉湧流の品にこゆる者なし。文子の水之性清沙石穢之と云説のいぶかしきなり。水品の論猶多かり、試みざる者不言、水擇ばざれば湯の功なし。湯者寔に茶の司命也、克々擇びて煮べき者也。

〔煎茶綺言〕驗水

毛文錫云、茶ハ水ノ神、水ハ茶ノ體、ソノ水ニアラザレバ、其神ヲ顯スコトナジ、精茶ニアラザレバ、曷ソノ體ヲ伺ハム、嘗云、新水活水大江流水皆好、然レドモ道遠ケレバ、厚味ヲ失フ、飛泉湍流陰翳ノ澗水ハ、性ハゲシウシテ宜シカラズトゾ、又云、井泉流水ハ體輕ク、味ヒ甘キヲ嘉シトストイヘド、水ノ甘キハイカデカ知ベケン、皆オホカタノ説ニシテ、未ダ試ミザル水ハ茶ヲ烹ニ及デ、其品ヲ定ムベキ、夫レ水ハ地脈ニヨリテ塗湧ストイヘド、五味ナク、只鹹鐵土ノ三氣ヲ狹ム、サレド其微ナルハ、單飲シテ之ヲ口裏ニ識ルベカラズ、只茶ヨク其體ヲ知テ、其神ヲ顯ハス、今コレヲ審ニスルニ、井泉江水及輕重ニ抱ハラズ、平旦ニ新汲水ヲ取、白瓷鍾三箇ニ盛テ、一ニハ鮮明ノ鐵線ヲ